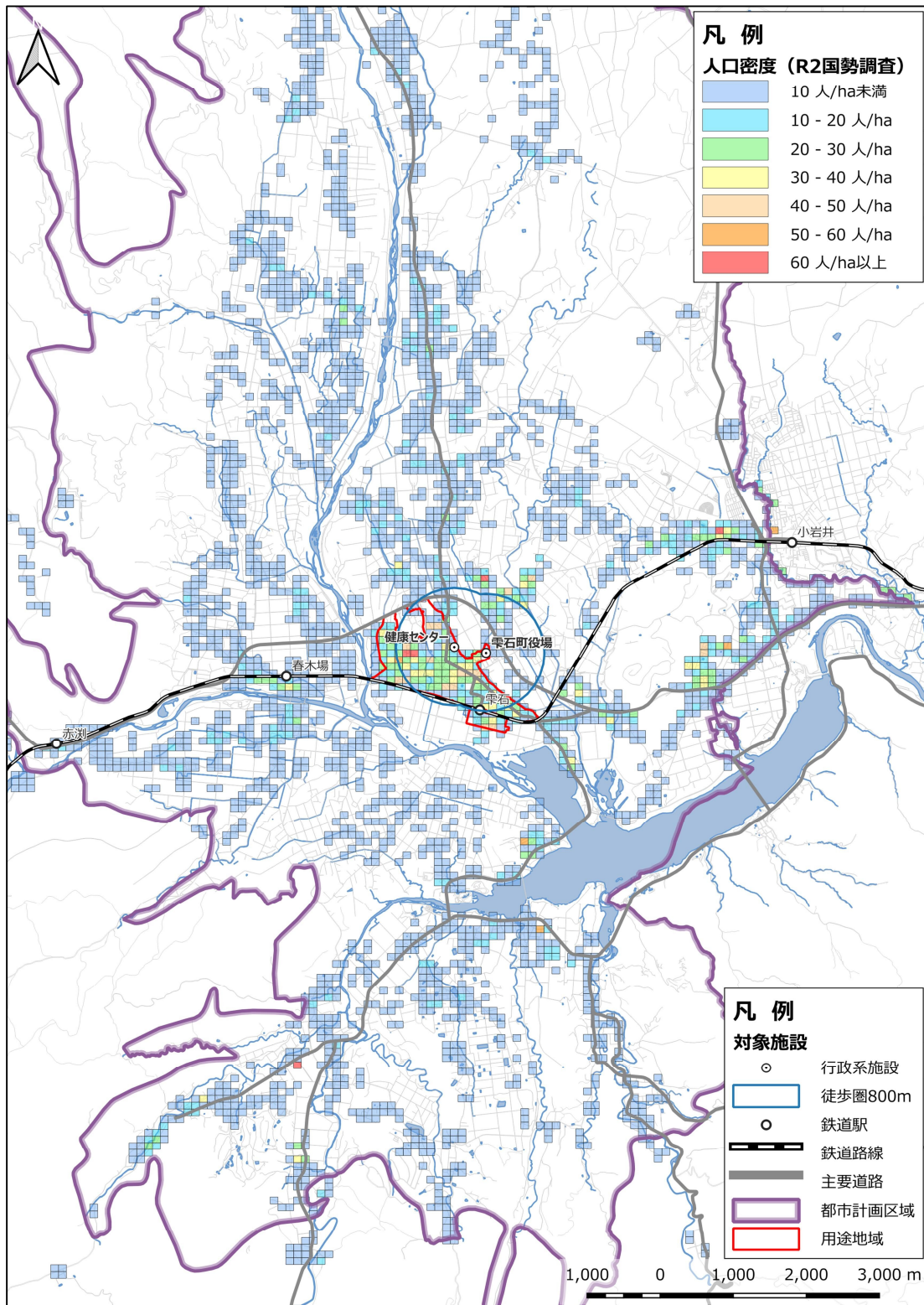


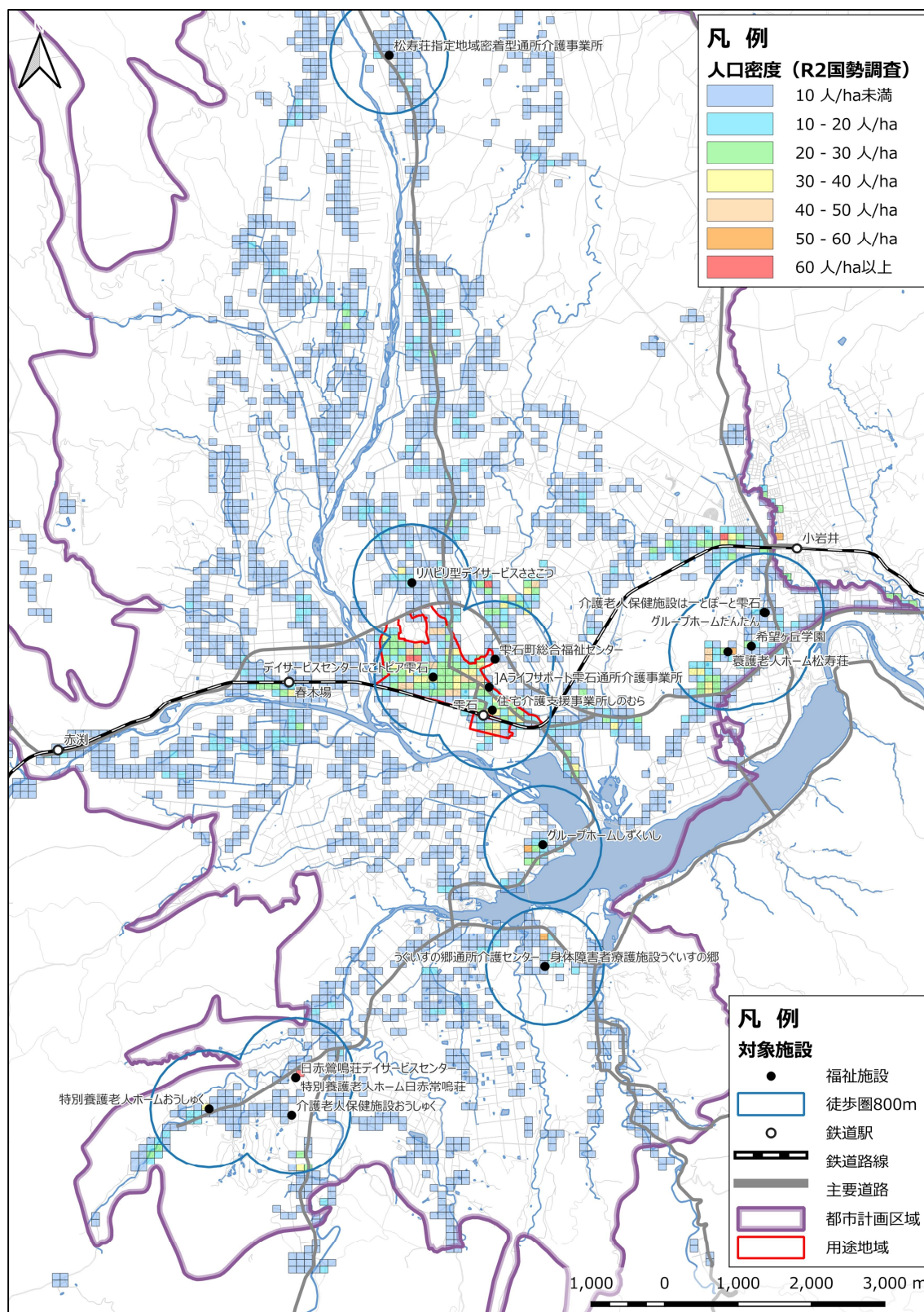
2. 地域の現状

(1) 各施設における人口カバー状況

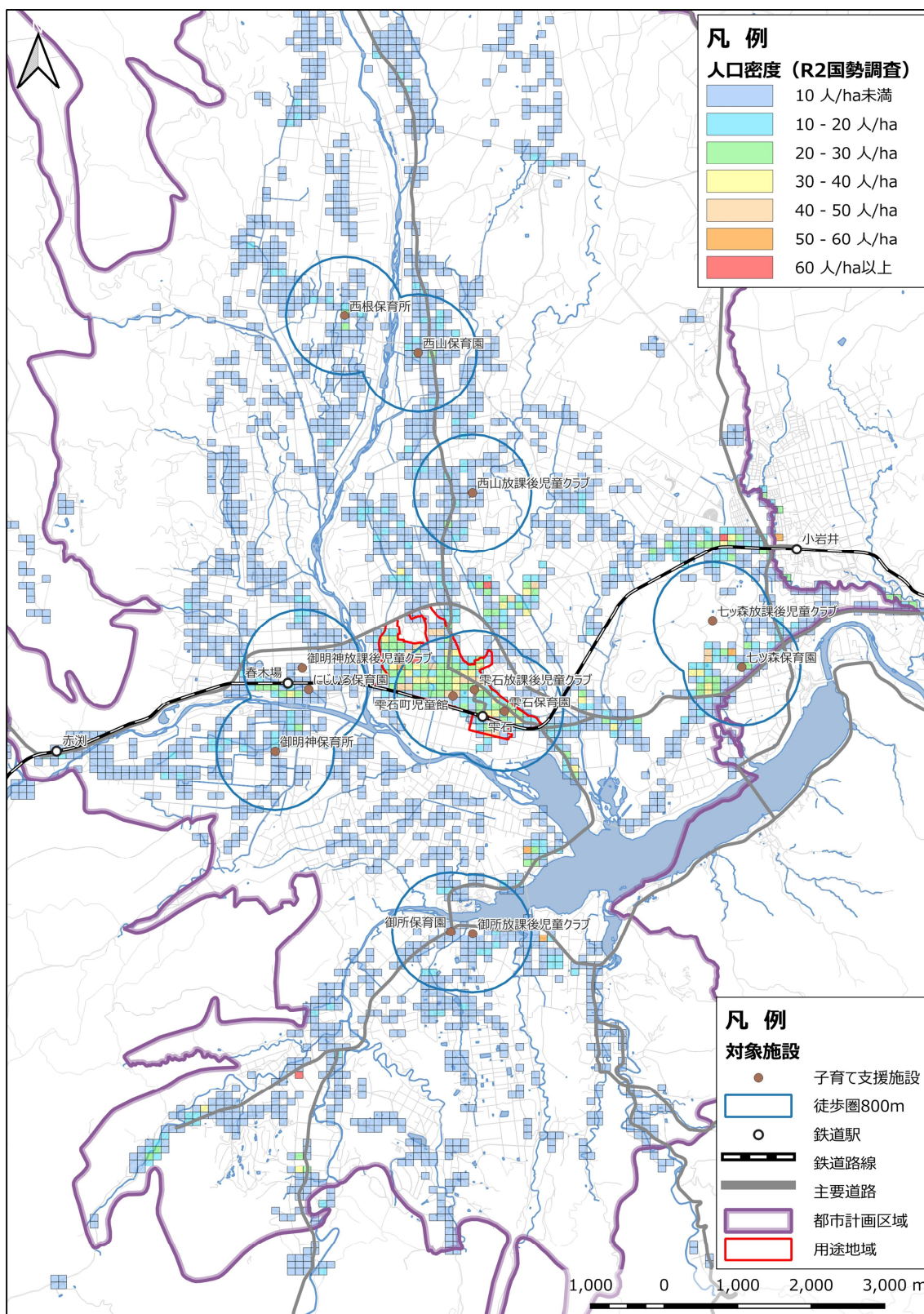
【行政機関】



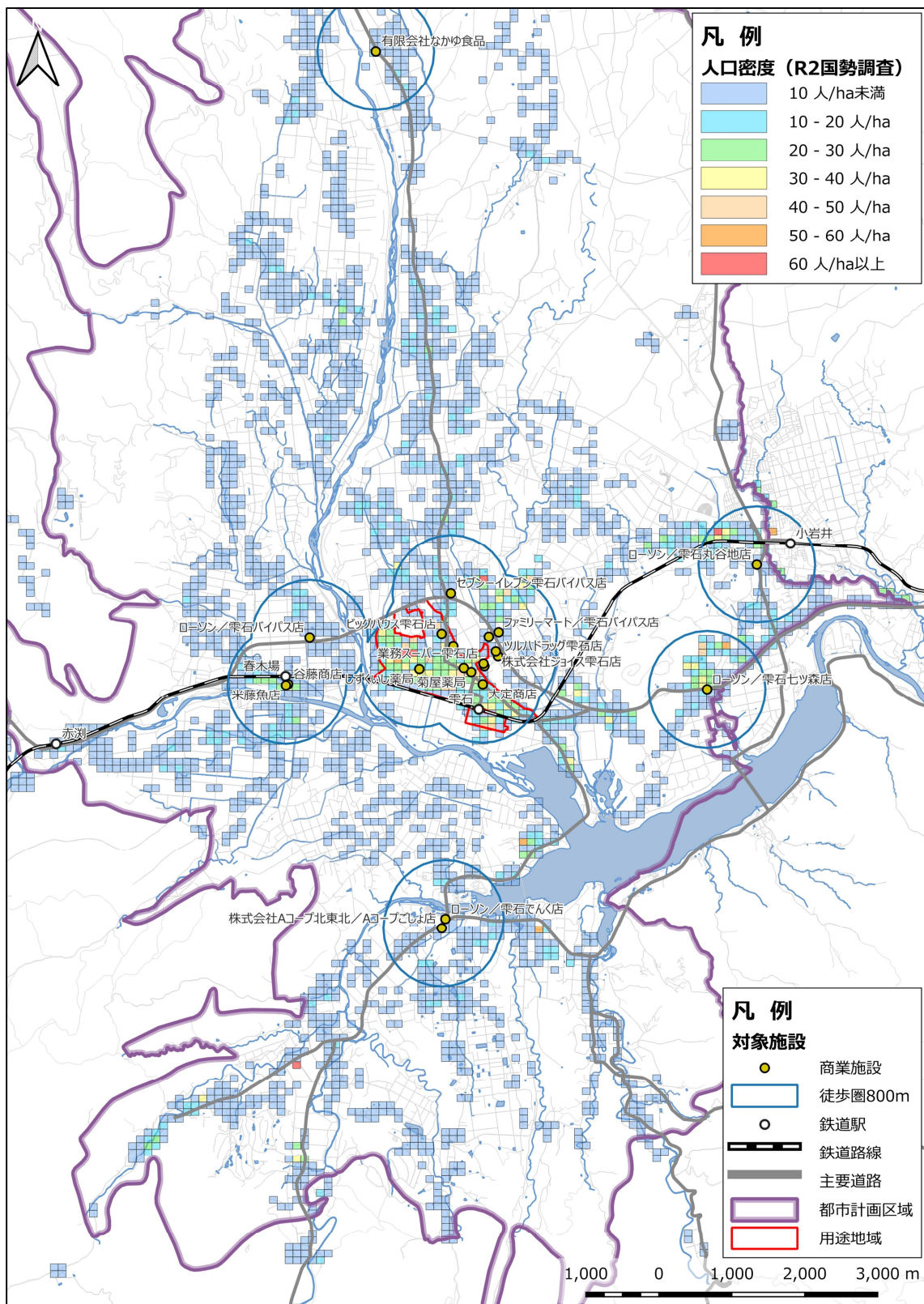
【介護・福祉施設】



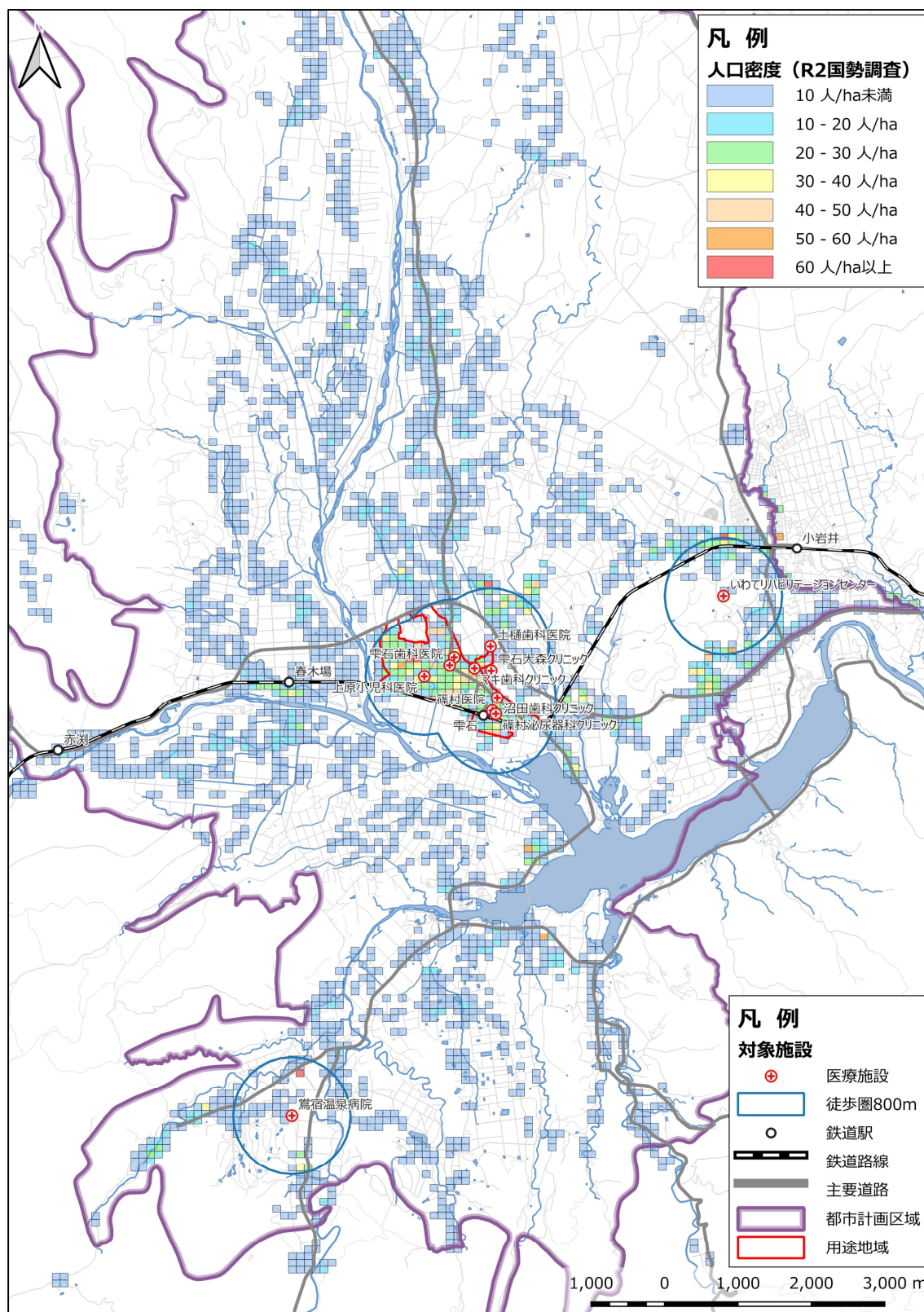
【子育て支援施設】



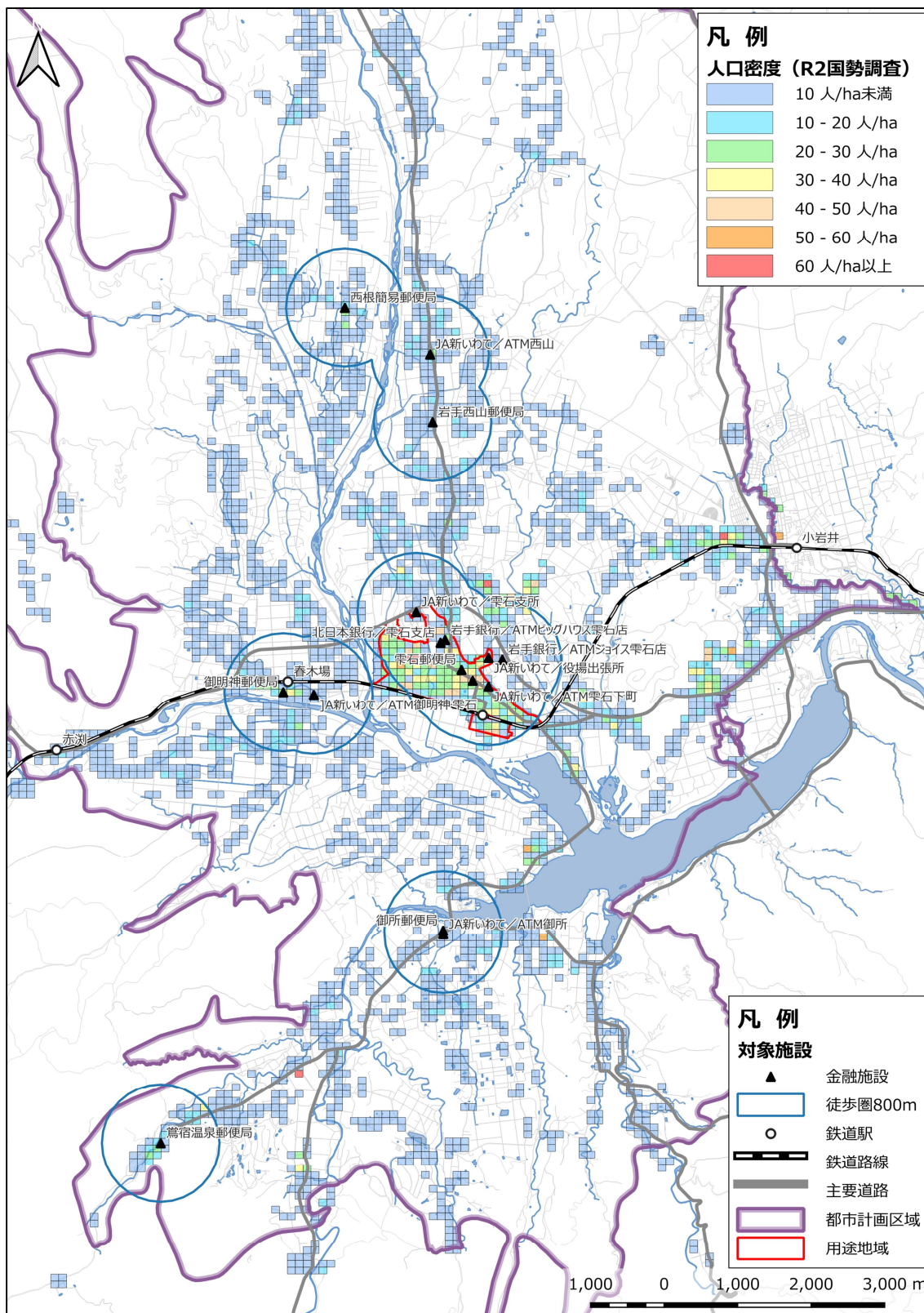
【商業施設】



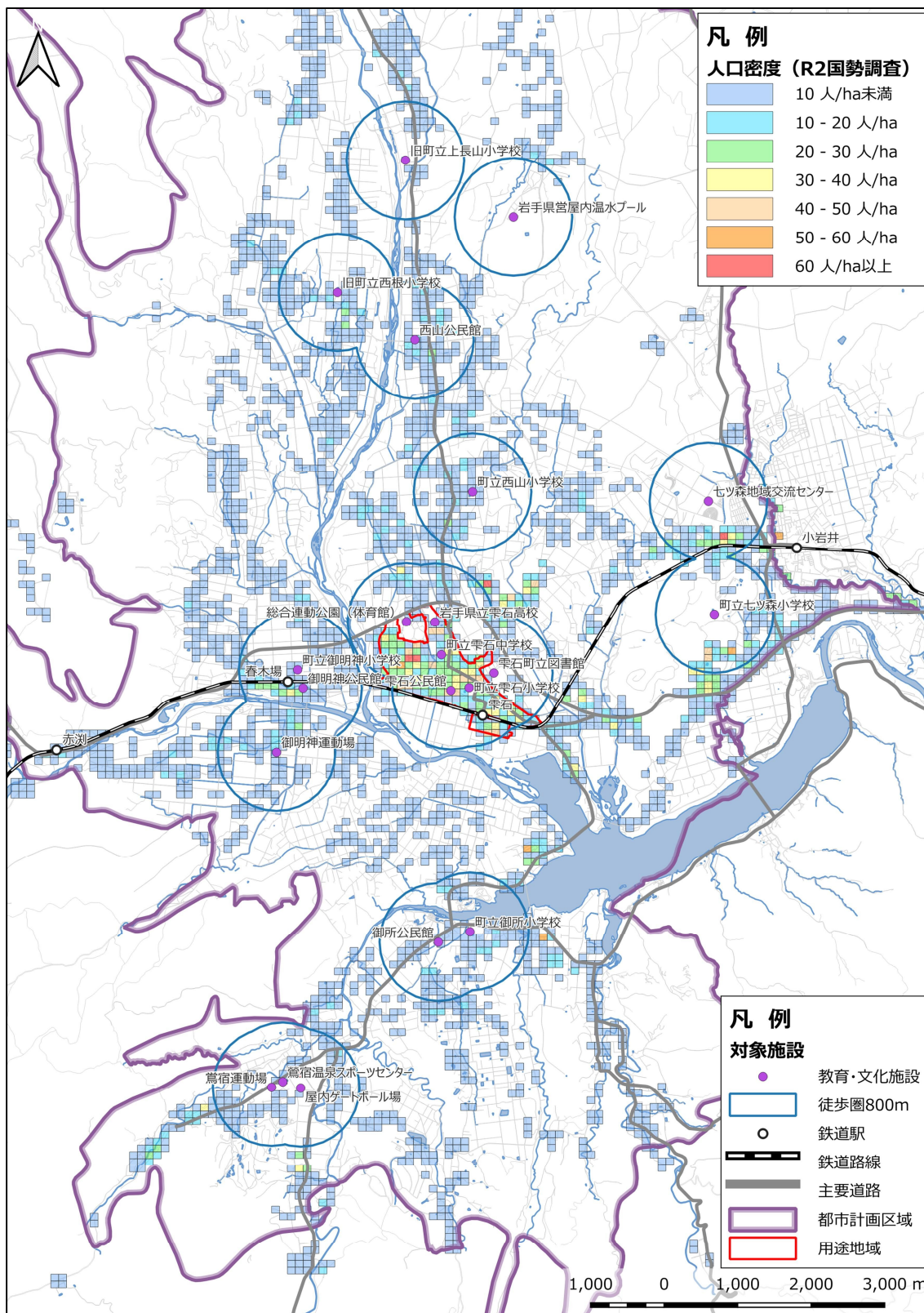
【医療施設】



【金融施設】



【教育文化施設】



(2) 町民意識調査（令和5年度実施）

本調査は、町総合計画に対する町民の意識動向や、町の施策、まちづくりに対する要望などを把握するために実施しているものです。

■「公共交通機関を気軽に利用できる」の属性別特徴

使いやすさの満足度は低いですが、重要度は高いものとなっていることから、公共交通施策の不足度が高いことが分かり、より効果的な施策が求められていることがわかります。

		満足度					重要度			
		満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	分からない	非常に大切である	大切である	さほど大切でない	大切でない
全体		5.0%	20.9%	28.4%	35.9%	9.8%	41.1%	54.1%	4.0%	0.8%
性別	男性	4.2%	15.1%	30.7%	40.1%	9.9%	35.4%	60.2%	3.9%	0.6%
	女性	6.0%	26.6%	27.1%	30.7%	9.5%	45.5%	49.2%	4.2%	1.1%
	性別不明	0.0%	14.3%	0.0%	71.4%	14.3%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%

■「通勤、通学、買い物など普段の移動に困っていない」の属性別特徴

移動に困っていないかどうかについては、満足度は「満足」「やや満足」が半数以上で、特段の課題がない一方、ほとんどの人が公共交通は重要なものと位置づけています。

		満足度					重要度			
		満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	分からない	非常に大切である	大切である	さほど大切でない	大切でない
全体		27.2%	40.1%	13.9%	13.9%	5.0%	49.9%	47.5%	2.1%	0.5%
性別	男性	29.8%	35.6%	12.0%	17.3%	5.2%	48.0%	49.7%	2.2%	0.0%
	女性	25.6%	43.7%	16.1%	10.6%	4.0%	50.8%	46.1%	2.1%	1.0%
	性別不明	0.0%	57.1%	0.0%	14.3%	28.6%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%

(3) 住民アンケート

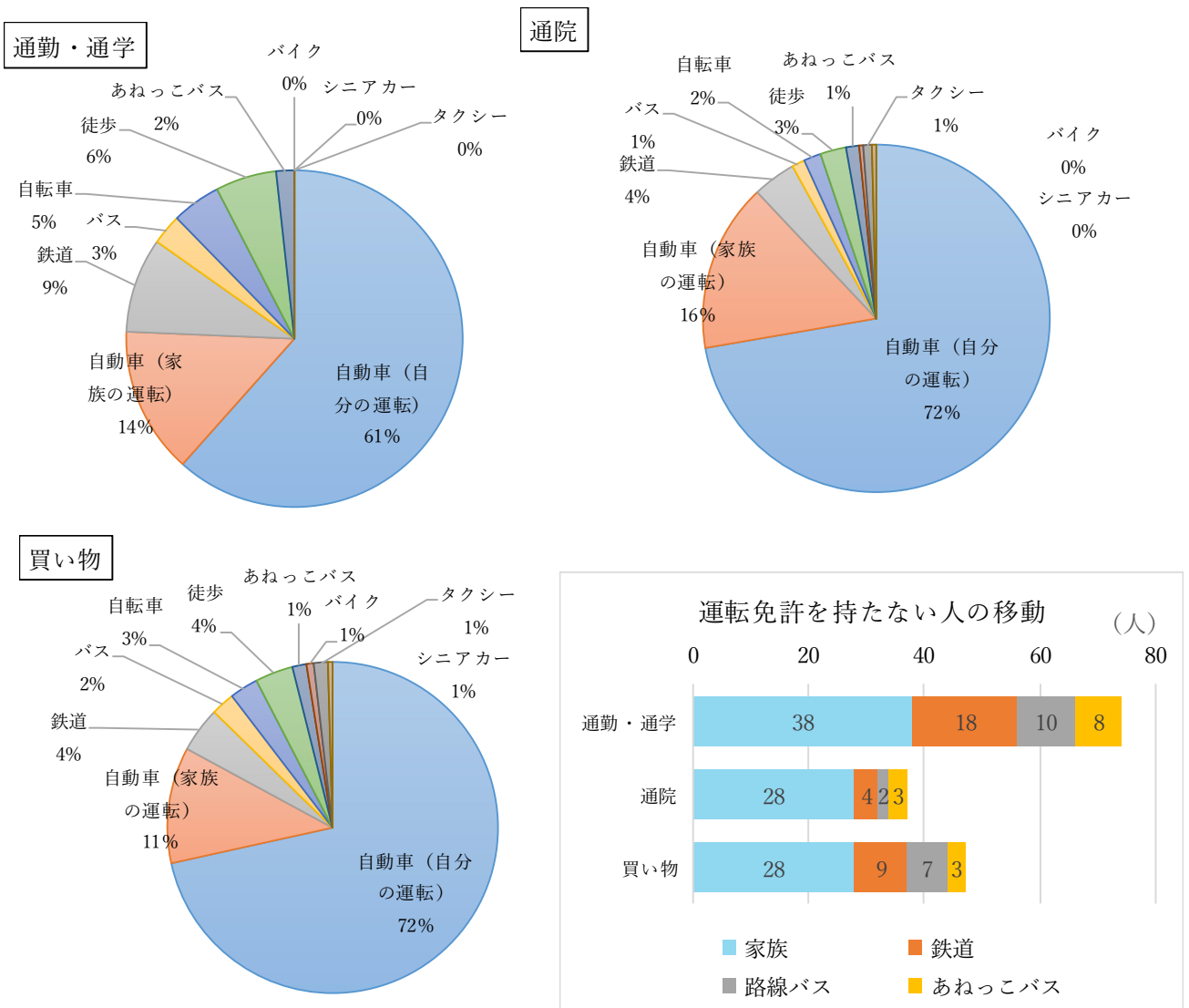
【調査の概要】

調査対象	中学生以上の住民 各年代 (8) 125 人 1,000 人
配布・回収方法	郵送
配布数／回収数／世帯回収率	1,000 通／461 通 46.1%

【結果の概要】

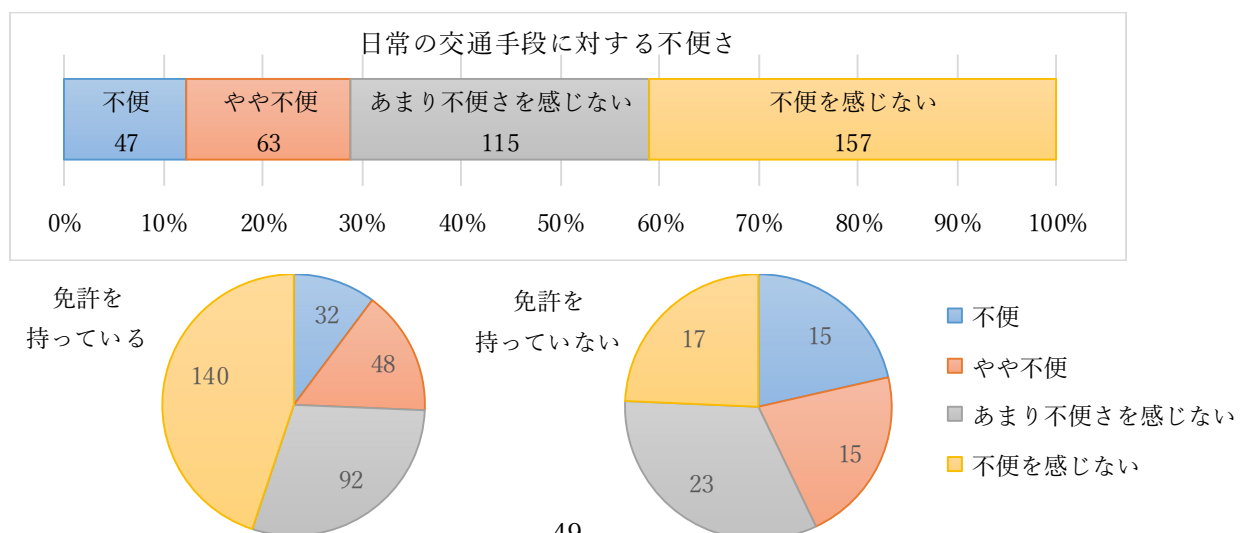
① 日常の交通手段

「通勤・通学」「通院」「買い物」の、日常生活で移動が必要な主なものについて、その手段を聞きました。いずれも自分が運転する自動車の使用がいちばん多く、次いで家族の運転で移動することが多くなっています。鉄道は通勤・通学の割合がいちばん多く、あねっこバスは共通して2%を超えない状況です。



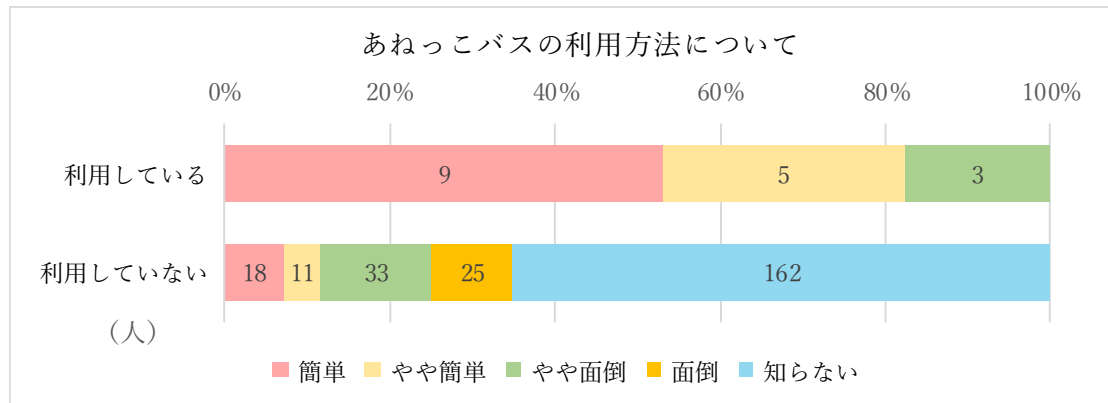
②日常の交通手段に対する不便さ

「不便を感じない」「あまり不便さを感じない」が7割以上を占めています。主に自分で運転できる人のほうが不便さを感じない結果となっています。



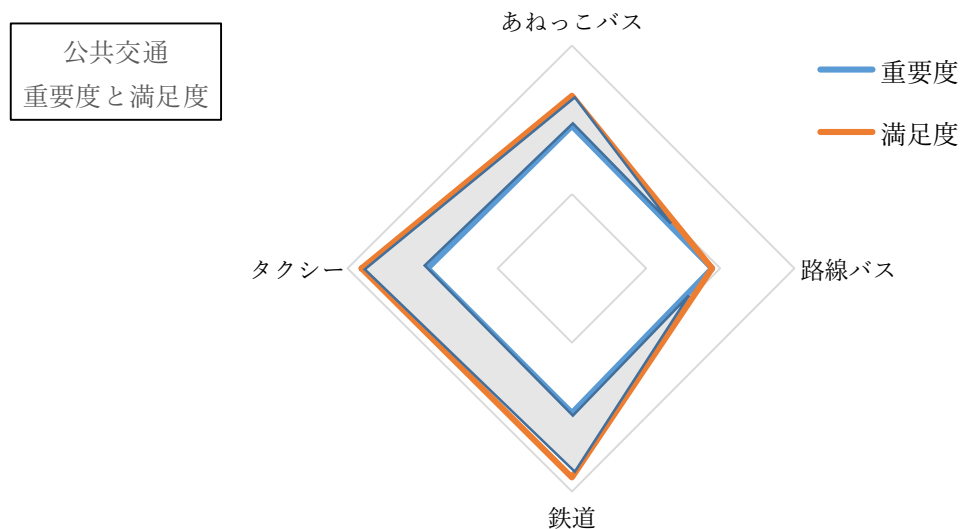
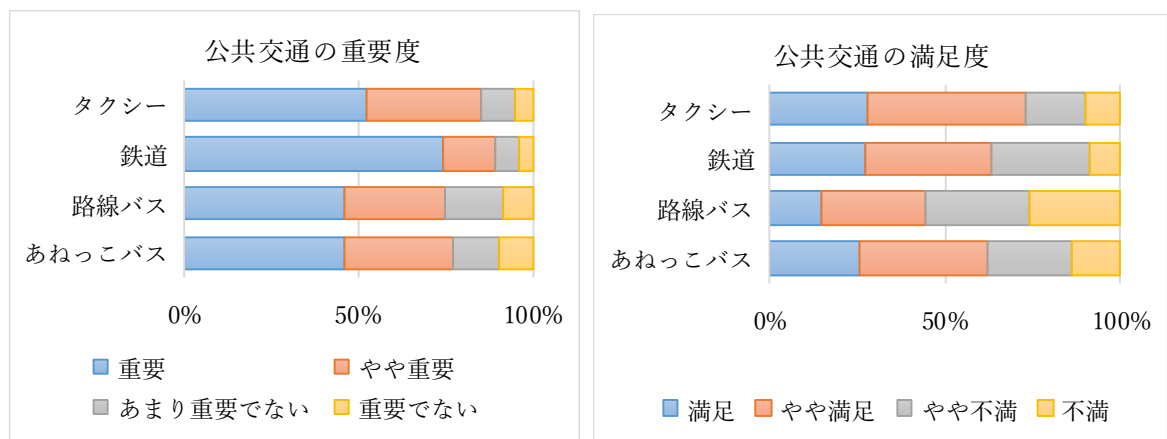
③あねっこバス

日常的にあねっこバスを利用している人は少なかったものの、利用方法については利用している人のほとんどは面倒とは思っていません。一方、利用していない人のほとんどは利用方法を知らないか、面倒という印象を持っていますので、分かりやすい周知が必要です。



④公共交通の重要度と満足度

町内の主な公共交通に関し、「重要であるかどうか」の重要度はおおむねの一方、満足しているかどうかの「満足度」にはばらつきがあります。結果をチャートで重ねると、重要度と満足度に関きがあることが分かります。



(4) 路線バス利用実態調査

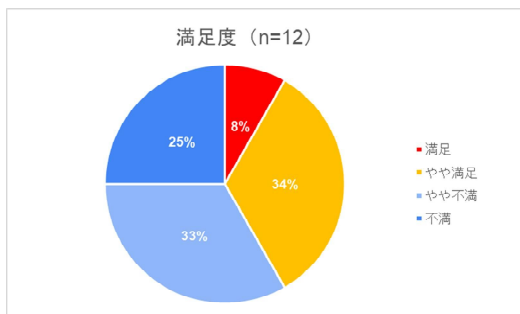
【調査の概要】

調査対象	(株)岩手県交通 雫石線利用者
配布・回収方法	バス車内へ調査カードを設置、利用者自身が調査フォームへアクセスして回答
調査期間	令和6年4月15日(月)～令和6年4月30日(火)
回答数	12票(男性4人、女性8人)

【結果の概要】

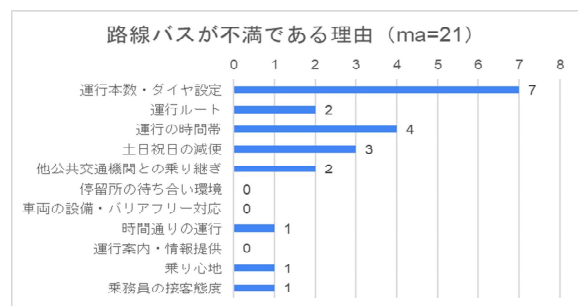
- ・路線バスの満足度については「満足・やや満足」と回答した人が41.7%、「不満・やや不満」と回答した人が58.3%となりました。一方で、重要度については全員が「重要・やや重要」と回答しました。
- ・挙げられる不満点としては、「運行本数・ダイヤ設定」が33.3%と最も高く、次いで「運行ルート」が19.0%、「土日祝日の減便」が14.3%と高くなりました。
- ・改善点としては、「運行本数・運行間隔の改善」が30.0%と最も高くなり、次いで「運行時間帯の拡大」が26.7%、「土日祝日の増便」が16.7%と高くなりました。さらに停留所については、利用目的が異なっても「雨風をしのげる待合環境」の回答が挙げられました。
- ・町民自身がバス路線を維持するためにできることとしては、「公共交通について考える」、「路線バスの利用を増やす」がそれぞれ29.4%と最も高くなりました。

問 17-1 路線バスの満足度

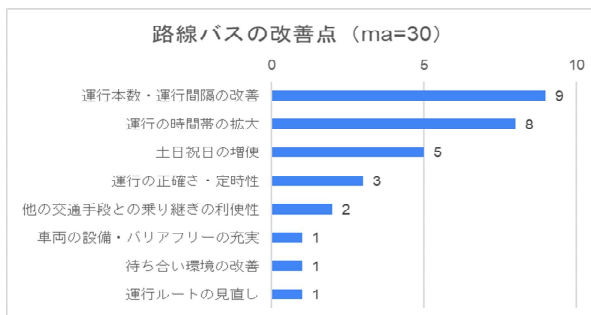


問 17-2 路線バスへの不満の理由

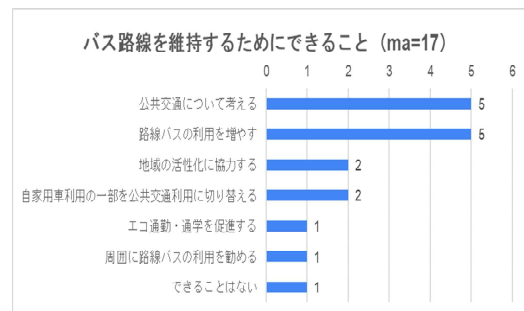
(問 17-1 で「不満・やや不満」と回答した方から複数回答)



問 21 路線バスの改善点をお答えください (複数回答)。



問 26 路線バスの維持のためにあなた自身ができること (複数回答)

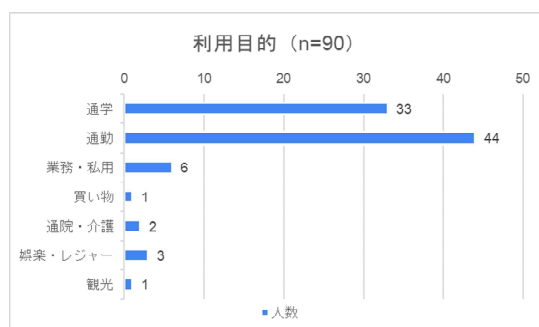


調査対象	J R 雫石駅、春木場駅、赤湊駅 利用者
配布・回収方法	・ 雫石駅にて調査チラシを配布し利用者自身が調査フォームへアクセスして回答 ・ 各駅に調査員を配置し、乗降者数をカウント
調査期間	雫石駅 令和6年5月14日（火）、令和6年5月19日（日） 令和6年5月21日（火） 春木場駅、赤湊駅（乗降者数調査のみ） 令和6年5月14日（火）、令和6年5月19日（日）
回答数	90 票（男性 46 人、女性 41 人、無回答 3 人）

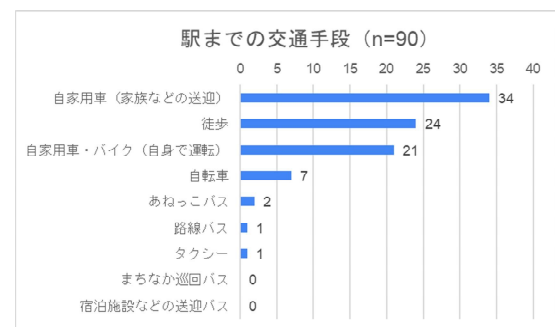
【結果の概要】

- ・ 鉄道の利用目的については、「通勤」が 48.9%と最も高く、次いで「通学」が高くなりました。また、降車駅については、盛岡駅が最も高く、雫石駅で降車した方は 6.7%でした。
- ・ 駅までの交通手段については、「自家用車（家族などの送迎）」が 37.8%と最も高く、次いで「徒歩」が 26.7%、「自家用車」が 23.3%と高くなりました。
- ・ 鉄道の満足度については「満足・やや満足」と回答した人が 56.6%、「不満・やや不満」と回答した人が 43.3%となりました。一方で、重要度については「満足・やや満足」と回答した人が 97.8%と大きな割合を占めました。
- ・ 挙げられる不満点としては、「運行本数・ダイヤ設定」が 49.3%と最も高く、次いで「運行の時間帯」が 36.6%と高くなりました。
- ・ 改善点としては、「運行本数・運行間隔の改善」が 42.6%と最も高くなり、次いで「運行時間帯の拡大」が 18.0%、「駅や駅周辺の魅力向上」が 14.8%と高くなりました。
- ・ 町民自身が鉄道を維持するためにできることとしては、「鉄道の利用を増やす」が 38.2%と最も高くなり、次いで「エコ通勤・通学を促進する」が 14.5%と高くなりました。
- ・ 「公共交通を利用しない方に公共交通利用の負担を求めること」に対して、「公共交通に対して対し関心・興味を持つ」と「当事者として責任を持ち、自分自身ができることを考える」が 61.1%でした。

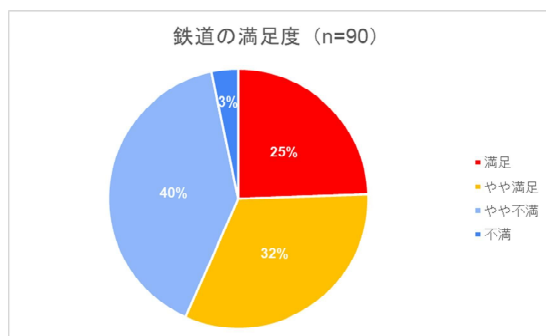
問 9 今回の鉄道利用の目的



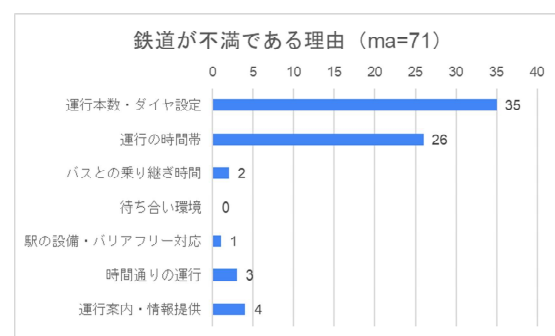
問 10 駅までの交通手段



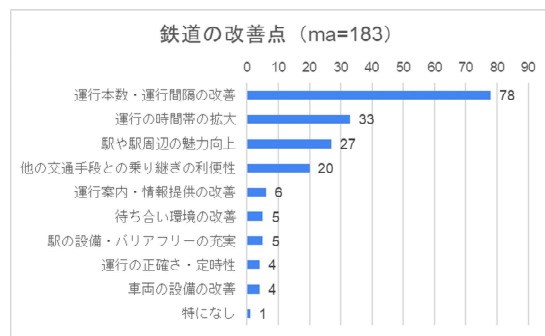
問 16-1 雫石町内を運行する鉄道の満足度



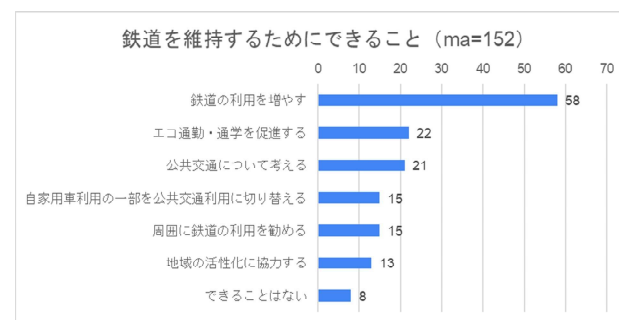
問 16-2 鉄道の不満の理由



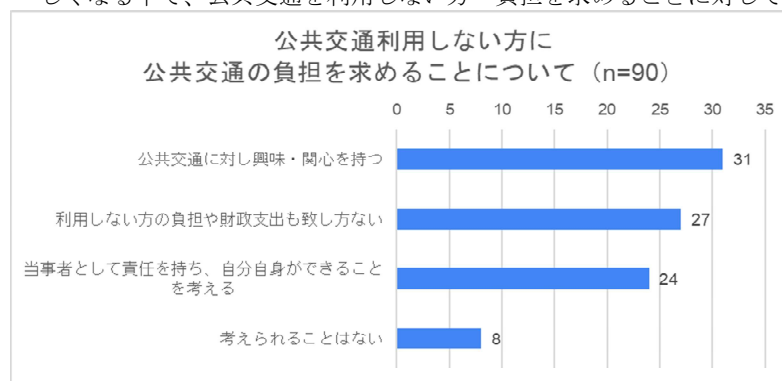
問 18 鉄道の改善点



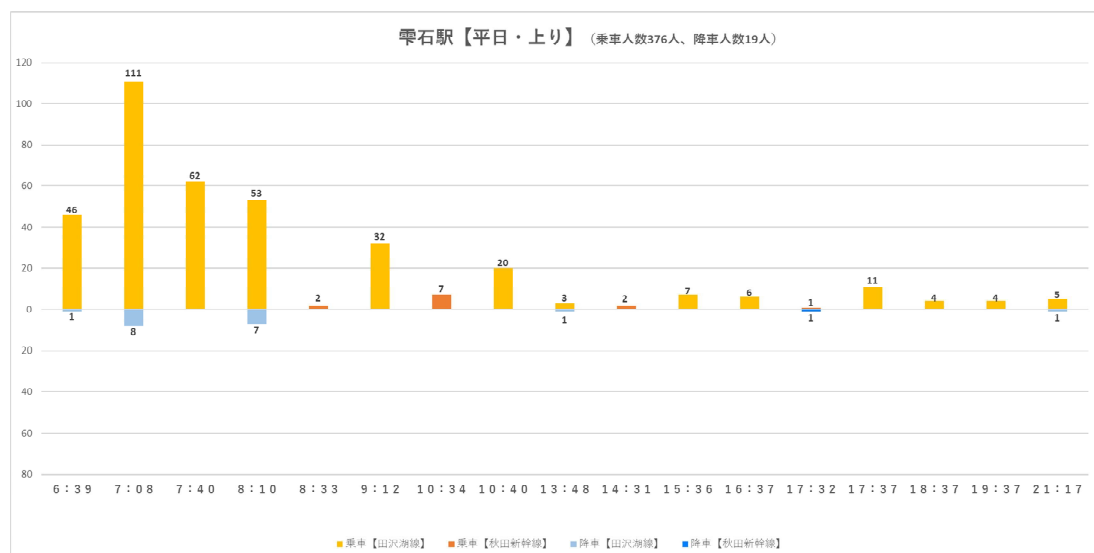
問 23 鉄道維持のためにあなた自身ができること

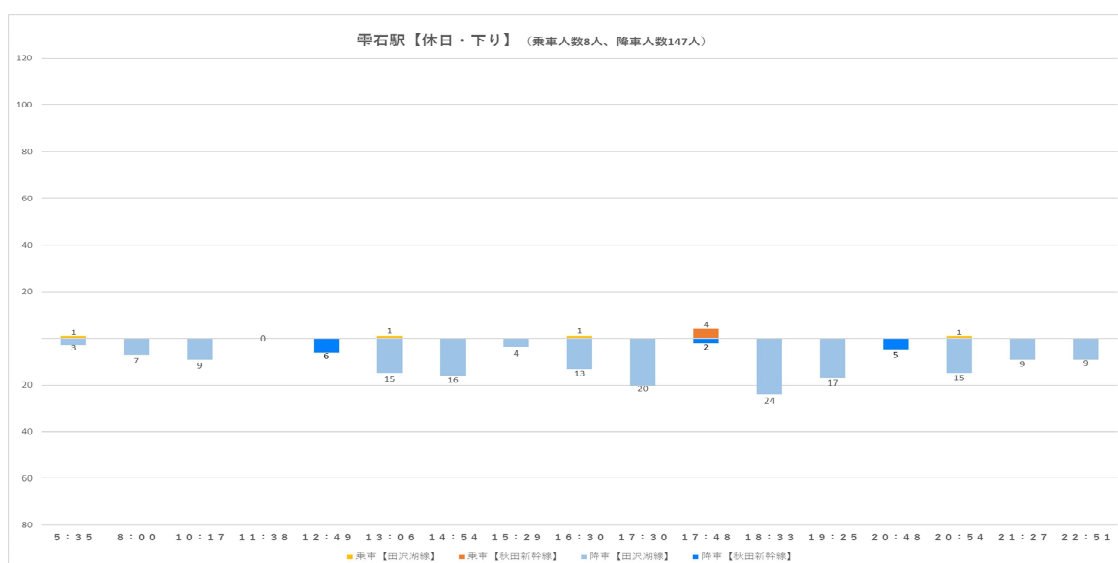


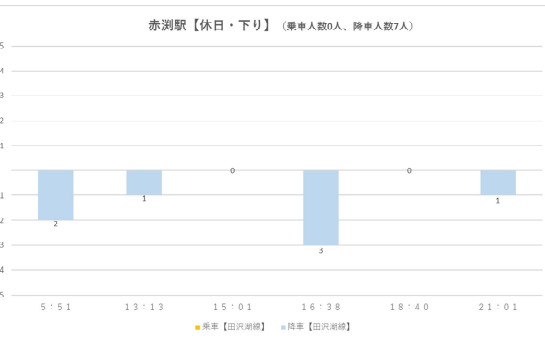
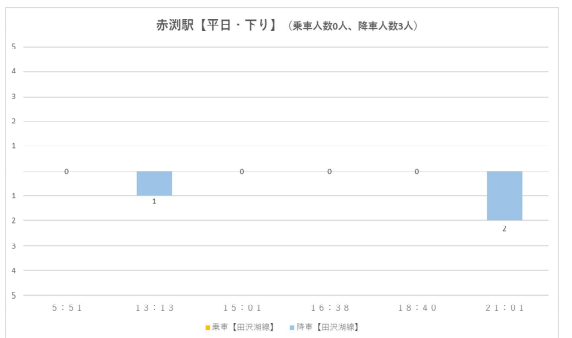
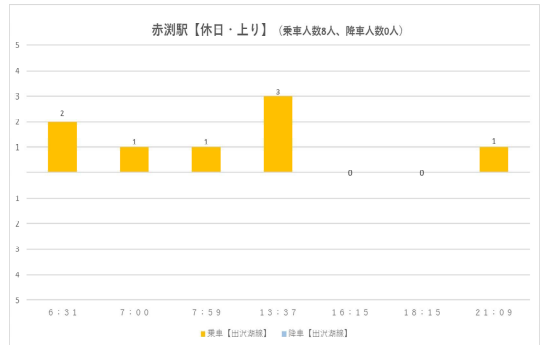
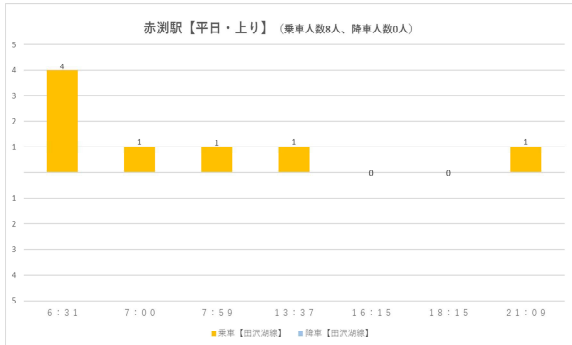
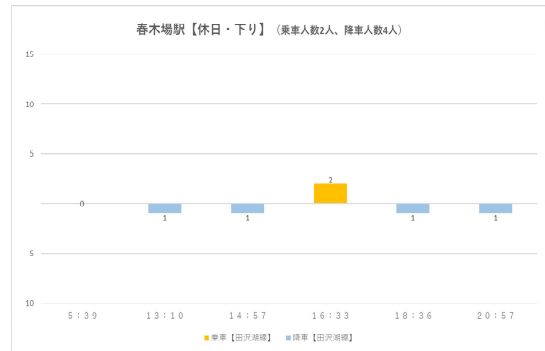
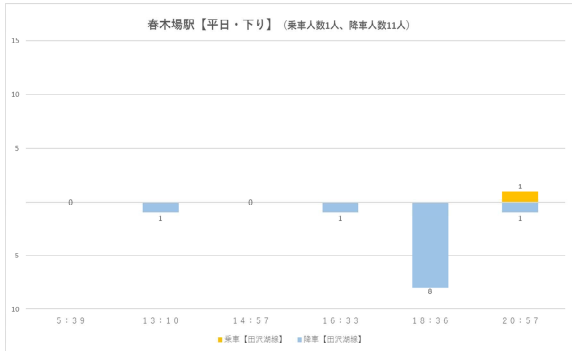
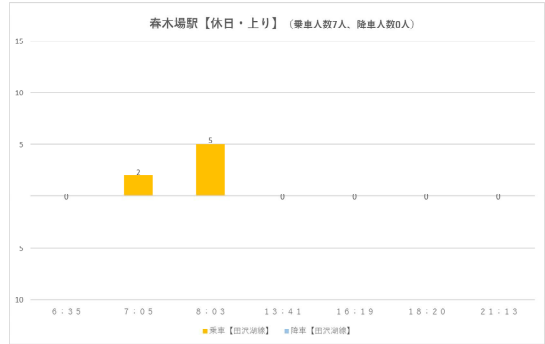
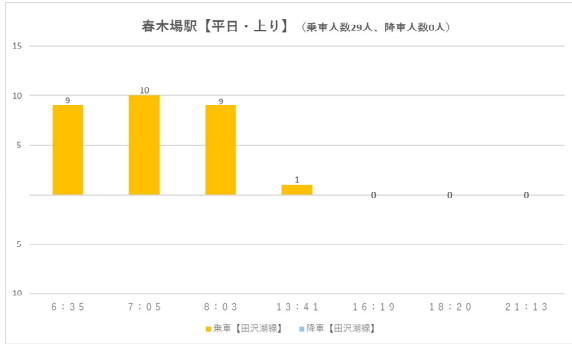
問 24 雫石町の鉄道は、本町以外での鉄道事業の利益によって維持されています。また、駅やその周辺環境は、鉄道を利用しない方も含めた税金によって整備されています。公共交通の置かれている環境が厳しくなる中で、公共交通を利用しない方へ負担を求めることに対してどうお考えか、お答えください。



○乗降者数調査







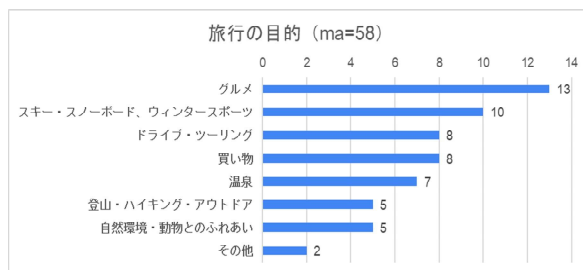
(6) 観光客・来訪者調査

調査対象	町内観光施設の利用者 (観光施設 10 ヶ所、宿泊施設 10 ヶ所)
配布・回収方法	・各施設に調査カードを配布し利用者自身が調査フォームへアクセスして回答
調査期間	【第 1 期】令和 6 年 3 月中旬からの 1 週間 【第 2 期】令和 6 年 4 月 20 日(土)～令和 6 年 4 月 26 日(金)
回答数	32 票(男性 14 人、女性 16 人、その他 1 人)

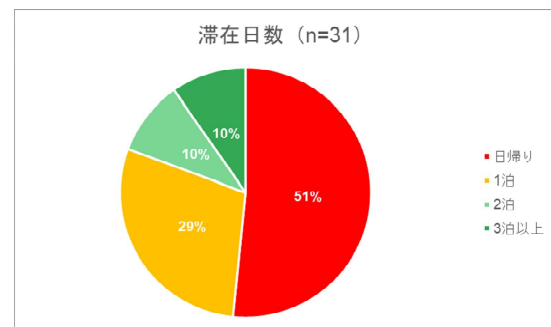
【結果の概要】

- ・旅行の目的については、「グルメ」が 22.4%と最も高く、次いで「スキー・スノーボード、ウィンタースポーツ」が 17.2%、「ドライブ・ツーリング」と「買い物」が 13.8%と高くなりました。
- ・滞在日数については、「日帰り」が 51.6%、「1泊」が 29.0%と短期的に滞在する観光客が多くなっています。
- ・滞在中に公共交通を利用しなかった理由として、「公共交通では自由に移動できないため」が 22.0%で最も高く、次いで「公共交通では目的地にたどりつけないため」と「他の交通手段を検討しなかった」が 20.0%と高くなりました。

問 9 旅行の目的



問 12 旅行の滞在日数をお答えください。



問 17 公共交通を利用しなかった理由 (複数回答)

